

探究科学科ニューズレター 第2号

三校合同課題研究発表会

12月17日(日)、富山国際会議場において、三校(富山・富山中部・高岡)の探究科学科2年による課題研究発表会が行われました。その様子を紹介します。

令和5年度の「探究科学科三校合同課題研究発表会」が、12月17日(日)、富山国際会議場で開催されました。本年度はコロナ感染症対策の入場規制がなくなつたため、県内三校の探究科学科1・2年生、関係教員、教育関係者に加え、高校生、中学生、保護者の方々の参観もあり、会場は非常に熱気に包まれていました。

開会式は、本校2年生氷見和奏さんの課題研究に対する思いがこもった挨拶で始まり、各校の代表発表が続き、富山中部高校理数科学科による「ナメクジの行動と記憶」、高岡高校人文社会科学科による「女紋どんなもん?」富山県の女紋徹底調査、富山高校理数科学科による「名触媒チタン 青色(メチレンブルー)の消失」と、各班ともタイトルから聴衆の興味を引きつけるものでした。それぞれ、苦労話や具体的な実験動画や写真・図表を多く用い、できるだけわかりやすく伝える工夫が見受けられました。会場からは1・2年生問わず発表や研究に対する質問が多く飛び交い、参加生徒の知識欲が垣間見られる開会式・全体会となりました。

開会式後は、国際会議場の2階と3階に分かれ、各班がこれまでに取り組んできた課題研究に関するポスターセッションが行われました。各班はポスターの内容や説明方法に工夫を凝らすと同時に、ここからは参加した一般の参観者と活発な意見交換が行われました。



写真：開会式挨拶



写真：富山高校代表発表

他校の探究科学科の生徒や一般の参観者から質問を受けることは、緊張感を伴うものでした。また、他校の発表を見ることは学ぶべきことが多く、大きな刺激を受けていました。「自分の発表の足りないところがわかり、他の班の色々な視点を学ぶことができ、良い機会となった。」「色々な先生からご指摘や、良かった箇所を教えてくださいたい良い経験になりました。」「学校の枠を超えてお互いの研究を知ることができ、生徒同士の交流もすることが出来て貴重な時間になりました。改めて探究活動は楽しいのだと気づけた気がします。」といった感想が多く聞かれた一方で、「同じコアタイムのため、興味を持った研究の発表が見られず残念だった。」「人の発表を理解することも難しかったし、自分の発表を相手に理解してもらうのも難しかった。」などの感想もありました。

三校合同課題研究発表会を終えて

2年生

① 宮崎慎之亮 さん 発表会となるように心がけていた。また、他の班の発表で、自分の発表の工夫がとられて面白かった。発表の仕方がとても面白かった。発表の工夫がとられて面白かった。発表の工夫がとられて面白かった。

② 澤田 結菜 さん 発表会、それまでの多く苦勞や思い出が詰まった探究活動の集大成となる日です。発表者として参加し、聞き手と意見を交わし研究内容を深める楽しさを感ずると共に、自分たちの研究内容を上手く伝える楽しさも感じました。

また、他の班の発表では、自分では思いつかないようなテーマや視点での研究が多くあったり、オー



写真：代表発表への質問



写真：ポスターセッション



写真：ポスターセッション



写真：ポスターセッション